

第5章

日韓青年親善交流のつどい ディスカッションプログラム

- 日韓青年親善交流のつどいの概要
- ディスカッション成果



日韓青年親善交流のつどいの概要

日韓青年親善交流のつどいは、韓国へ派遣された日本青年代表団と日本招へい中の韓国青年代表団が東京において、一堂に会し実施するディスカッションプログラムである。

概 要

- | | | |
|----------|--------------------------|-------------------|
| (1)プログラム | 令和7年度日韓青年親善交流のつどい | |
| (2)主催 | 内閣府 | |
| (3)開催期間 | 令和7年11月25日(火)～27日(木)2泊3日 | |
| (4)開催場所 | 第一ホテル両国(東京都墨田区) | |
| (5)参加者 | 日本青年代表団 | 25名(団長、副団長、渉外を含む) |
| | 韓国青年代表団 | 25名(団長、副団長、通訳を含む) |
| (6)運営 | つどい実行委員 | 5名 |

11月25日から27日まで、第一ホテル両国で日韓青年親善交流のつどいを開催し、日本青年代表団、韓国青年代表団が一堂に会した。

プログラムの企画に当たって、実行委員5名は9月中旬から準備を開始し、総合テーマと各プログラム内容を検討した。

その結果、今年度の総合テーマは「같이 있는(カチ インヌン) 価値、未来へつなぐ 약속(ヤクソク)」と決定した。日本語にすると「一緒にいることの価値、未来へつなぐ約束」である。日韓青年親善交流のつどいを通じて「一緒にいることの価値」に気づき、共に過ごす間に多様な「約束」をし、「未来」でその「約束」を果たして欲しいという願いを込めた。

プログラムは、グループ別ディスカッションや文化体験、日韓国交正常化60周年記念青年交流レセプション等で構成した。

ディスカッションは、10月に韓国で開催された「日韓青少年交流会」におけるディスカッションに引き続く一連のプログラムとして実施し、「少子高齢化」「ワークライフバランス」「教育」「環境」「ソーシャルメディア」の五つのテーマで討論した。青年たちはテーマ別に五つのグループに分かれ、各テーマについて討議を行った。

文化体験では、四種類のブースを設置し、両国青年が共に自由にブースを回って多様な体験できる場を設けた。

令和7年は日韓国交正常化60周年にあたり、それを記念して青年交流レセプションを実施した。両国の政府関係者や本事業既参加青年も出席し、世代や言葉の壁を越えた交流が行われた。両国青年による熱のこもった文化紹介も行われ、盛会のうちに幕を閉じた。

日韓両国の青年たちは様々な活動を通じて互いに友好と相互理解を深め、3日間のプログラムを成功裏に終えた。



約60名の日韓青年が一堂に会し、交流プログラムを行う

プログラム内容

11月26日 (火)	13:00-13:30	開会式・オリエンテーション
	13:30-14:30	レクリエーション
	14:30-15:00	休憩
	15:00-18:00	ディスカッション ①少子高齢化 ②ワークライフバランス ③教育 ④環境 ⑤ソーシャルメディア
	18:00-19:30	夕食
	19:30-20:30	文化体験
11月26日 (水)	10:00-13:00	ディスカッション
	13:00-14:30	昼食
	14:30-16:00	ディスカッション成果発表
	16:00-17:00	休憩
	17:00-18:00	レセプションリハーサル
	18:00-20:00	日韓国交正常化60周年記念青年交流レセプション
11月27日 (木)	9:00-10:00	振返り会
	10:00-10:15	休憩
	10:15-11:00	閉会式・クロージングイベント
	11:30-12:30	昼食歓送会

プログラム詳細

● レクリエーション

一緒に (같이/カチ) 過ごす時間やチームで協力することの価値 (가치/カチ) を体感し、日韓両国の青年が共にアイスブレイクとゲームに取り組んだ。

アイスブレイクではビンゴを行った。ビンゴ用紙のマスに記載された質問を投げかけ、条件に合ったら名前を書いてもらい、ビンゴを成立させるルールであった。1か月ぶりに再会であったが、ビンゴを通じて緊張が和らぎ、打ち解けていく様子がうかがえた。

6グループに分かれて行ったゲームは、日韓の文化をテーマにしたクイズと、お題に対してグループ全員が同じ答えを目指す以心伝心ゲームで構成された。グループ同士でただ競い合うのではなく、互いを理解し合いながら、協力することの楽しさを感じ、交流をより深めていく時間となった。



● ディスカッション

日韓外交正常化60周年を迎え、これからのより良い日本と韓国の社会に向けた25のAGENDA（「日韓の青年が一緒に検討したり取り組んだりするべき課題」と定義）を提示することを最終ゴールと定め、ディスカッションを行った。

日韓両国の青年は、10月に韓国で実施された「日韓青少年交流会」及び11月に日本で実施した「日韓青年親善交流のつどい」において、ディスカッションの機会があった。テーマは「少子高齢化」「ワークライフバランス」「教育」「環境」「ソーシャルメディア」の五つが定められ、両国の青年はテーマ毎に五つのグループに分かれてディスカッションに臨んだ。

自主研修期間①

互いに討論してみたい具体的な内容をグループ毎に検討し、事前に共有した。その内容に基づき、各テーマについて情報収集を行ったり、各自の意見を整理したりして、ディスカッションに向けた準備を進めた。

第一ラウンド：韓国

テーマ毎に自国の現状や背景、課題等を共有するとともに、共通点や相違点について意見交換した。両国が抱える問題を整理したうえで、個人で実践できるアクションプランを検討した。

自主研修期間②

日本でのディスカッションまでの約1か月の間に、第一ラウンドで検討したアクションプランを各自実行した。

第二ラウンド：日本

アクションプランを実行して感じたこと等をグループ内で共有したうえで、最終ゴールである「AGENDA」を各グループ五つ検討した。



● 文化体験

日本の夏祭り体験、日韓両国の衣装体験、思い出のお土産作り、日韓両国の伝統遊びの四つのブースを設置し、グループごとに自由に回って多様な体験をした。両国青年は、共に体験することを通じて交流を深めるとともに、互いの文化を知る機会になった。

日本の夏祭り体験

- ・つどいオリジナルおみくじ
- ・金魚すくい



日韓両国の衣装体験

- ・よさこい衣装
- ・浴衣
- ・韓服
- ・制服 等

思い出のお土産作り

- ・水引ストラップ

日韓両国の伝統遊び

- ・けん玉
- ・コンギ 等



● 日韓国交正常化60周年記念青年交流レセプション

令和7年は日韓国交正常化60周年にあたり、それを記念し青年交流レセプションを実施した。両国政府関係者や本事業既参加青年も出席し、世代や言葉の壁を越えた交流が見られた。

日韓両国の青年によるパフォーマンスも行われた。

韓国青年は、韓国文化に関するクイズ、テコン舞（テコンドーの型と舞踊を組み合わせたパフォーマンス）、日本の歌やK-POPダンスのパフォーマンスを披露した。

日本青年は、ソーラン節、ダンスパフォーマンス、韓国の歌を披露した。

最後には、両国青年合同で歌唱パフォーマンスを披露し、大いに盛り上がり、日韓国交正常化60周年にふさわしい貴重な機会となった。



● 振り返り会

事業への参加を通じて得た経験を振り返り、共有する時間を設けた。五つのグループに分かれて行い、自身の経験や気づき、将来の展望を共有することを通じ、率直な思いや考えを知り、互いの距離をより縮める機会になった。



● 閉会式・クロージングイベント

両国の青年1名ずつ感想を述べた後、3日間を通じて行われたプログラム「マニト」の答え合わせを行なった。

「マニト」とは「秘密の友だち」を意味するイタリア語であるが、ここでは1980年代に韓国で流行したゲームを指す。初日に自分のマニトとミッションが書かれた紙が青年に渡された。マニトは相手国の青年がランダムに指定され、決められたマニトに対し相手に気付かれないようにミッションを行った。正解したペアも残念ながら正解できなかったペアも別れを惜しむ時間となった。



ディスカッション成果

テーマ:少子高齢化

概要	
小テーマ	<p>日本：日韓両国が直面する少子高齢化による経済的な影響、そして世代間の価値観の違いがもたらす社会的な影響について、既存政策の成功事例と失敗事例から学び、若者が未来の社会をどのように担い、「幸せな社会」を共に築いていくべきか、その展望を議論したい。</p> <p>韓国：日韓両国若者世代の雇用環境（マーケット）の変化の観点からみた少子高齢化問題の解決方法。</p>
参加者	<p>日本参加青年 5名</p> <p>韓国参加青年 4名</p>
通訳	韓国青年代表団通訳
スケジュール	
【10月25日(土)】	
9:00 - 9:30	ディスカッション・オリエンテーション
9:30 - 12:00	<p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テーマの解釈を一致させ、テーマ・話し合う内容についての考えを共有 ・話し合う内容の時間配分 ・少子高齢化に関する単語の相違を確認 ・両国の現状、共通点、相違点等を議論 <ul style="list-style-type: none"> - 日本：社会保障費の増大、労働力不足、東京ブラックホール論 - 韓国：雇用への影響、ソウル一極集中、住宅価格上昇 ・両国が抱える問題を整理 <ul style="list-style-type: none"> - 政治、雇用、兵役、世代間の価値観の違いなど社会的側面 - 経済成長の鈍化、効率化、教育熱などの経済的側面 - 雇用環境や子育て・キャリア支援などの働きやすさ - 少子高齢化に対する政策比較 ・アクションプランの方向性について議論
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 14:30	<p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料の作成に時間が足りないと感じ、2チームに分かれた <p>①アクションプラン策定班</p> <ul style="list-style-type: none"> - つどいまでの期間に、日韓それぞれで若年層(20～30代)の意識調査 - 調査結果をもとに両国に有効なアジェンダ提言 <p>②成果発表のパワーポイント資料準備班</p>
14:30 - 15:30	ディスカッション成果発表

スケジュール	
【11月25日(火)】	
15:00 - 17:15	ディスカッション
17:15 - 17:30	ディスカッション
【11月26日(水)】	
10:00 - 10:45	ディスカッション ・付箋を用いた相互レビュー ・他グループとの情報・意見交換
10:45 - 13:00	最終準備

日韓青年AGENDA25

①子育て世帯の経済的問題

→日韓両国の若者が経済的不安から少子化が進んでいると考えている

②仕事と育児の両立の難しさ

→育児休暇の取得率は上昇しているものの、仕事と育児の両立に不安を感じている

③若年労働人口減少への対応

→韓国の青年の案として日本の高齢者雇用政策を参考にした政策案の策定

日本の青年の案として韓国の労働生産性向上に向けた取り組みを参考にする(IT化・自動化の推進、リスクリング)

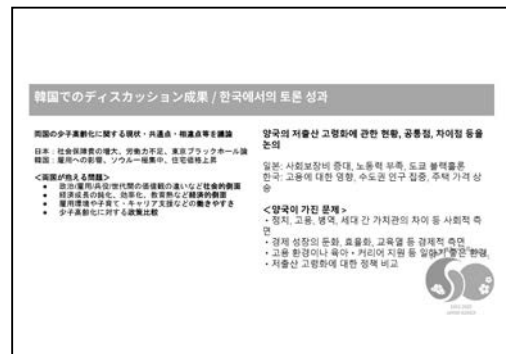
④地方創生

→世代共存希望寄付制度、韓国青少年活動振興院(KYWA)を参考に地方での青少年育成施策を実施

⑤少子高齢化に関する情報を発信

- ・韓国は特に不安定な経済状況や資産格差の深刻化を重視
- ・日本は特に子育て費用・社会保障崩壊への危機感を重視
- ・両国共に根本には「若者が自分の生活を安定させられない」という共通の課題がある

発表スライド



自主研修期間 アクションプランの実行 역선분원 실행

日韓青年世帯の少子高齢化への意識調査を行った。日韓で両国間では統一し、両国のアンケート結果を比較した。

<対象> 日韓の20~30代の男女

<内容>

- 少子高齢化の主要原因
- 少子高齢化によって生じた社会問題
- 少子高齢化政策の必要性
- 労働力人口が減少する中で経済成長維持のために取り組むべき対策
- 地方活性化のための対策
- 世代交流へ関心

<調査数> 日本 120名、韓国 60名

調査結果をもとに5つのアジェンダを提案する。

한일 청년 세대의 저출산 고령화에 대한 의식 조사를 실시했을 경우 양국을 한일 통일하게 구성하여, 양국의 설문 결과를 비교함

<대상> 한일 20~30대 남녀

<내용>

- 저출산 고령화의 주요 원인
- 저출산 고령화로 인해 발생한 사회 문제
- 한일 저출산 고령화 정책의 필요성
- 노동 인구 감소하는 상황에서 경제 성장 유지 대책
- 지역 활성화를 위한 대책
- 현대 사회에 적자는 점

<응답 수> 일본 120명, 한국 60명

조사 결과를 바탕으로 5가지 아젠다를 제안함

日韓青年AGENDA25

① 子育て世帯の経済的問題 / 육아 세대의 경제적 문제
 ② 仕事と育児の両立の難しさ / 일과 육아의 병행의 어려움
 ③ 若年労働人口減少への対応 / 청년 노동인구 감소 대응
 ④ 地方創生 지방 활성화
 ⑤ 少子高齢化に関する情報 (今回の学びなど) を発信 / 저출산 고령화에 대한 정보(이번 학습 등)를 공유하기

Agenda1 子育て世帯の経済的問題 육아로 인한 경제적 문제

アンケート調査結果 (日本)

Q: 少子高齢化問題の最も主要な原因は何だと思いますか?

- 経済的不安定
- 子育てや育児にかかる費用
- 結婚に対する価値観の変化

→経済的コストがハードルとなっている

経済的不安定	29.2%
子育てや育児にかかる費用	27.5%
結婚に対する価値観の変化	22.5%
その他	20.8%

일본 설문 조사 결과

Q: 저출산고령화 문제의 가장 주요한 원인은 무엇이라고 생각하십니까?

- 경제적 불안
- 양육이나 교육에 드는 비용
- 결혼에 대한 가치관의 변화

→경제적 비용이 부담이 되고 있다

경제적 불안	29.2%
양육이나 교육에 드는 비용	27.5%
결혼에 대한 가치관의 변화	22.5%
기타	20.8%

Agenda1 子育て世帯の経済的問題 육아로 인한 경제적 문제

アンケート調査結果 (韓国)

Q: 少子高齢化問題の最も主要な原因は何だと思いますか?

- 不安定な経済状況や高賃金率 (住宅費、教育費など)
- 仕事と育児の両立の難しさ (ベネッセ研修の概念、長時間労働、育児休暇の取得率など)
- 結婚に対する価値観の変化 (21%)

→経済的負担に上乗せ、結婚の意思を減らす原因も

不安定な経済状況や高賃金率 (住宅費、教育費など)	29.2%
仕事と育児の両立の難しさ (ベネッセ研修の概念、長時間労働、育児休暇の取得率など)	27.5%
結婚に対する価値観の変化 (21%)	22.5%
その他	20.8%

한국 설문조사 결과

Q: 현재 대한민국 '저출산 문제' 가장 주요한 원인이 무엇이라고 생각하십니까?

- 불안정한 경제 상황 및 자산 가치 (주택 부담, 높은 교육) (29%)
- 일과 육아 병행의 어려움 (특히 단양 우수, 장시간 노동, 낮은 육아휴직 사용률) (27%)
- 비혼/비출산 선호 등 개인적 가치관 변화 (21%)

→일과 육아 병행이 어려워 결혼의 필요성도 감소

불안정한 경제 상황 및 자산 가치 (주택 부담, 높은 교육) (29%)	29.2%
일과 육아 병행의 어려움 (특히 단양 우수, 장시간 노동, 낮은 육아휴직 사용률) (27%)	27.5%
비혼/비출산 선호 등 개인적 가치관 변화 (21%)	22.5%
기타	20.8%

Agenda2 仕事と育児の両立の難しさ 일/육아 병행의 어려움

アンケート調査結果 (日本)

Q: 少子高齢化問題の最も主要な原因は何だと思いますか?

- 経済的不安定
- 子育てや育児にかかる費用
- 結婚に対する価値観の変化
- 仕事と育児の両立の難しさ

→仕事と育児の両立に苦しんでいる人が3割

仕事と育児の両立の難しさ	33.3%
経済的不安定	29.2%
子育てや育児にかかる費用	27.5%
結婚に対する価値観の変化	20.0%

일본 설문 조사 결과

Q: 저출산고령화 문제의 가장 주요한 원인은 무엇이라고 생각하십니까?

- 경제적 불안
- 양육이나 교육에 드는 비용
- 결혼에 대한 가치관 변화
- 일과 육아 병행의 어려움

→일과 육아 병행의 어려움을 느끼는 사람이 약 33%

일과 육아 병행의 어려움	33.3%
경제적 불안	29.2%
양육이나 교육에 드는 비용	27.5%
결혼에 대한 가치관 변화	20.0%

Agenda2 仕事と育児の両立の難しさ 일/육아 병행의 어려움

アンケート調査結果 (韓国)

Q: 少子高齢化問題の最も主要な原因は何だと思いますか?

- 不安定な経済状況や高賃金率 (住宅費、教育費など)
- 仕事と育児の両立の難しさ (ベネッセ研修の概念、長時間労働、育児休暇の取得率など)
- 結婚に対する価値観の変化 (21%)

→経済的負担に上乗せ、結婚の意思を減らす原因も

不安定な経済状況や高賃金率 (住宅費、教育費など)	29.2%
仕事と育児の両立の難しさ (ベネッセ研修の概念、長時間労働、育児休暇の取得率など)	27.5%
結婚に対する価値観の変化 (21%)	22.5%
その他	20.8%

한국 설문조사 결과

Q: 현재 대한민국 '저출산 문제' 가장 주요한 원인이 무엇이라고 생각하십니까?

- 불안정한 경제 상황 및 자산 가치 (주택 부담, 높은 교육) (29%)
- 일과 육아 병행의 어려움 (특히 단양 우수, 장시간 노동, 낮은 육아휴직 사용률) (27%)
- 비혼/비출산 선호 등 개인적 가치관 변화 (21%)

→ 경제적 부담 이유도, 일과 육아의 병행이 어렵다는 상황 이유도

불안정한 경제 상황 및 자산 가치 (주택 부담, 높은 교육) (29%)	29.2%
일과 육아 병행의 어려움 (특히 단양 우수, 장시간 노동, 낮은 육아휴직 사용률) (27%)	27.5%
비혼/비출산 선호 등 개인적 가치관 변화 (21%)	22.5%
기타	20.8%

Agenda2 仕事と育児の両立の難しさ 일/육아 병행의 어려움

育休取得率 (2024)

日本 (男性) : 40.5%
 韓国 (男性) : 31.6%

→上乗せしているもの、依然として低水準

利用しづらさ・制度の障壁

日本:

- 制度は狭い(つつあるが、育休は「短期間で終わるケース」が多い)
- 企業の育休取得率を公表義務化により、職場風土改善への圧力がかかっている

韓国:

- 制度的には育休取得が可能でも、心理的・職場文化的なハードルが残る

育休取得률 (2024)

일본 (남성) : 40.5%
 한국 (남성) : 31.6%

→상승하고 있지만, 여전히 낮은 수준

이용하기 어려운 이유·제도의 장애

일본:

- 제도는 정세되고 있으나, 육아휴직은 짧게 끝나는 경우 가 있음
- 기업에 육아휴직을 공시 의무가 있어, 직장 내 문화 개선 압력이 적용되고 있음

한국:

- 제도는 육아휴직을 가능하지만, 심리적·직장 문화적 장애가 여전히 존재

Agenda3 若年労働人口減少への対応 청년 노동인구 감소 대응

韓國例

背景

- 若年労働人口の減少により国家競争力の低下や労働力不足が深刻化する中、高齢者雇用の促進が必要であるとの意見が多く存在している。
- 현재 한국 보건복지부에서 실시하고 있는 노인 일자리사업은 정부에서 임의적으로 사회적 일자리를 창출하며, 국가 재원으로 인건비를 재결하는 형태. 노동력 성격보다 복지적 성격이 강함.
- 한국에서 효과적으로 노인 고용을 촉진하기 위한 새로운 정책이 필요하다고 느낌.

한국 측

배경

- 청년 노동인구 감소로 인한 국가 경쟁력 약화 및 노동력 부족 문제를 해결하기 위해, 고령자 고용 촉진이 필요하다는 의견 많음
- 현재 한국 보건복지부에서 실시하고 있는 노인 일자리사업은 정부에서 임의적으로 사회적 일자리를 창출하며, 국가 재원으로 인건비를 재결하는 형태. 노동력 성격보다 복지적 성격이 강함.
- 한국에서 효과적으로 노인 고용을 촉진하기 위한 새로운 정책이 필요하다고 느낌.

Agenda3 若年労働人口減少への対応 청년 노동인구 감소 대응

韓國例

アクションプラン

日本の高齢者雇用政策を参考にした政策案の策定

→(シニア・ワークハブ)

日本の「シルバー人材センター」モデルを参考にした韓国型高齢者就業プラットフォーム

- 民間企業、家庭、公共団体から業務を受注し、プラットフォームのマッチングアルゴリズムを通じて適切な高齢求職者へ仕事を割り当てる仕組み
- 高齢者の就業促進と政府財政負担の軽減効果が期待される

한국 측

역선분원

일본의 고령자 채용 정책을 참고한 정책안 수립

→「시니어 워크 하브」

일본의 실버 인재 센터 모델에 참고한 한국형 노인 일자리 플랫폼

- 민간기업, 가정, 공공단체에서 업무를 수주하며, 플랫폼의 매칭 알고리즘을 통해 적합한 노인 구직자에게 일감을 배정하는 구조
- 고령층의 취업 촉진 및 정부의 재정 부담 감소 효과를 기대할 수 있음

Agenda3 若年労働人口減少への対応 청년 노동인구 감소 대응

OECD加盟諸国の労働生産性 (2022年) 就業 1인당 GDP (2022년) 취업 1인당 GDP (2022년)

국가	노동생산성 (2022년)
일본	100,000
한국	80,000
미국	120,000
중국	60,000
영국	90,000
독일	110,000
프랑스	105,000
이탈리아	95,000
스페인	85,000
포르투갈	75,000
그리스	65,000
터키	55,000
인도네시아	45,000
브라질	35,000
인도	25,000
중국	15,000

OECD 가입국의 노동생산성 (2022년) 취업 1인당 GDP (2022년) 취업 1인당 GDP (2022년)

국가	노동생산성 (2022년)
일본	100,000
한국	80,000
미국	120,000
중국	60,000
영국	90,000
독일	110,000
프랑스	105,000
이탈리아	95,000
스페인	85,000
포르투갈	75,000
그리스	65,000
터키	55,000
인도네시아	45,000
브라질	35,000
인도	25,000
중국	15,000

一人当たりの労働生産性：労働者一人当たり、あるいは労働者が1時間働くことで生み出す成果
 1인당 노동생산성: 근로자 1인당, 또는 근로자가 1시간 일해서 창출하는 성과

韓國の一人当たりの労働生産性は日本よりも高い、韓国の1인당 노동생산성은 일본보다 높다.

Agenda3 若年労働人口減少への対応 청년 노동인구 감소 대응

<p>日本側</p> <p>アクションプラン 日本は韓国の特長を生かすために人材の取り組みを参考にしている。→ITを自動車の産業 →VXネット</p> <p>韓国側</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働・年齢層は比較した分野で、日本より早くIT化・自動化が進められている。 OECDによると、成人教育（習得率）を定える制度が日本より体系的に整備され、政策設計が軌跡的である。 IT化・自動化・自動化・リスキリング <ul style="list-style-type: none"> 韓国のようにまず社会全体のデジタル基礎を固め、人材育成の必要度を高めることで、ITスキルの実践がさらに進みやすくなると思える。 	<p>日本側</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働・年齢層は比較した分野で、日本より早くIT化・自動化が進められている。 OECDによると、成人教育（習得率）を定える制度が日本より体系的に整備され、政策設計が軌跡的である。 IT化・自動化・自動化・リスキリング <ul style="list-style-type: none"> 韓国のようにまず社会全体のデジタル基礎を固め、人材育成の必要度を高めることで、ITスキルの実践がさらに進みやすくなると思える。
--	---

Agenda4 地方創生 지방 활성화

<p>韓国側</p> <p>背景</p> <p>過度な首都圏への人口集中により、地方の一部地域では極めて低い出生率が見られ、平均年齢の上昇とともに急速な高齢化が進行している。</p> <p>若年層が首都圏へ移動することで、地方の介護施設や教育施設が徐々に縮小し、少子高齢化の悪循環が繰り返されている。</p> <p>そのため、地方活性化のためには一部地域における子育て・教育環境の改善が必要であるという認識が高まっている。</p>	<p>한국 측</p> <p>배경</p> <p>과도한 수도권 인구 집중으로 인해 지방의 일부 지역에서 극도로 낮은 출산율이 나타나고 있음. 또한, 평균 연령이 높아지며 고령화가 급속도로 진행되고 있음</p> <p>청년층이 수도권으로 이동하여 지방의 돌봄시설 및 교육시설이 점차 축소되며, 저출산 고령화의 악순환이 반복됨</p> <p>따라서 지방 활성화를 위해 일부 지역의 육아 및 교육 환경 개선이 필요하다는 인식 상승</p>
---	---

Agenda4 地方創生 지방 활성화

<p>韓国側</p> <p>アクションプラン 日本の地方活性化制度を参考にした政策家の策定（世代共存希望寄付制度） 日本の「ふるさと納税」を参考にした地方活性化政策</p> <p>地方への寄付の促進に加え、寄付金は褒状品として地域の特産物を受け取ることができ、税額控除も適用される</p> <p>寄付金は、地域交通や社会基盤施設（教育・保育施設など）の拡充に活用される</p>	<p>한국 측</p> <p>역설문</p> <p>일본의 지방 활성화 제도를 참고한 정책안 수립</p> <p><세대 공존 희망 기부제></p> <p>-일본의 'ふるさと納税'를 참고하여 만든 지방활성화 지원 정책</p> <p>-지방에 대한 기부를 촉진하기 위해 기부자는 지역에 지역 특산물을 받을 수 있고, 세액공제까지 혜택</p> <p>-유망균은 지역 교통 및 사회기반시설(교육, 보육시설 등) 확충을 위해 사용</p>
--	--

Agenda4 地方創生 지방 활성화

<p>日本側</p> <p>現状 2023年時点で全国人口の約30%が首都圏に集中 →地方の魅力創出が必要</p> <p>アクションプラン 韓国青少年活動振興院(KYVA)を参考に地方での青少年育成施設を実施（国立中央青少年修練院など） 日本の地方にも若者が集い、育つ拠点を作る。</p>	<p>일본 측</p> <p>현황</p> <p>2023년 기준으로 전국 인구의 약 30%가 수도권에 집중 → 지방의 매력 창출이 필요</p> <p>역설문</p> <p>한국 청소년 활동진흥원(KYVA)을 참고하여 지방에서의 청소년 육성 정책을 실시(국립중앙청소년수련원 등)</p> <p>일본의 지방에도 젊은 세대가 모이고 성장할 수 있는 거점을 마련한다.</p>
---	---

Agenda5 少子高齢化に関する情報を発信 저출산고령화에 대한 정보 공유

<p>まずは身近なところから、少子高齢化に対する関心や問題意識を高めていく必要がある。</p> <p>手段</p> <ul style="list-style-type: none"> SNSでの発信 <ul style="list-style-type: none"> 個人アカウント 団体アカウント 大学などで発表の機会がある場合は、積極的に活用する 	<p>일단은 우리 주변의 일부터 시작해서, 저출산·고령화에 대한 관심과 문제의식을 높여 나갈 필요가 있다.</p> <p>수단</p> <ul style="list-style-type: none"> SNS를 통한 발신 <ul style="list-style-type: none"> 개인 계정 단체 계정 대학교 등에서 발표할 기회가 있다면, 적극적으로 활용해야 한다.
---	--

テーマ:ワークライフバランス

概要			
小テーマ	<p>日本：育休産休やフレックス等、個人の生活に配慮した働き方に関する制度への認識、実情、日韓の類似点、相違点。性別、年齢など多角的な視点からのライフスタイルを重要視したキャリア形成。</p> <p>韓国：職場内の福祉制度の考案、及び家庭内役割分担の必要性。</p>		
参加者	<table border="1"> <tr> <td>日本参加青年 4名</td> <td>韓国参加青年 4名</td> </tr> </table>	日本参加青年 4名	韓国参加青年 4名
日本参加青年 4名	韓国参加青年 4名		
通訳	日本青年韓国派遣団渉外		
スケジュール			
【10月25日(土)】			
9:00 - 9:30	ディスカッション・オリエンテーション		
9:30 - 12:00	<p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関するそれぞれの考えを共有 ・両国の現状、共通点、相違点等を議論 <ul style="list-style-type: none"> - 韓国：家庭内役割分担の現状。主に女性の家事や育児の負担、キャリア形成や復帰への影響などの観点から自国の問題点を共有。 - 日本：若者の仕事観、職業意識、企業における福利厚生を提示。共働き家庭における女性の役割の負担や育休取得率などから自国の問題点を共有。 		
12:00 - 13:00	昼食		
13:00 - 14:00	<p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両国が抱える問題の整理 ・アクションプランの検討 ・成果発表の準備 		
14:30 - 15:30	ディスカッション成果発表(日本：岡田唄 韓国：キム・ウンジ)		
アクションプラン			
<p>労働における平等人権の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートフォームの作成(アルバイト経験のある20代を対象とする) ・アルバイトに関する事例調査(不当な扱いの解明、分析から労働環境の改善策を見つける) ・ディスカッショングループのチャット時間限定(午前6時～午後9時で、情報共有の効率化、無駄の排除を目的とする) 			


スケジュール	
【11月25日(火)】	
15:00 - 17:15	<p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行したアクションプランの結果共有 <ul style="list-style-type: none"> -20代を対象にしたアルバイト実態調査の結果(日本55名、韓国55名)について、日韓の共通の問題点、課題を以下のとおり見つけた。 ・保険に関する知識不足 ・不当な扱いを受けた際取るべき行動、相談機関に関する知識不足 等
17:15 - 17:45	<p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮AGENDAの作成 ・仮AGENDAを記載した模造紙作成
【11月26日(水)】	
10:00 - 10:45	<p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポストイットによる相互レビュー、コメントやアドバイス、感想を共有
10:45 - 13:00	<p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終準備:多様な意見をもとにAGENDAを修正し、発表用スライドを作成
14:30 - 16:00	<p>成果発表(発表者 日本:岡田唄 韓国:イ・イエダム)</p>
日韓青年AGENDA25	
<p>①契約書をコピー、写真撮影により個人保管する(個人レベルのアクションプラン) →アンケート調査結果から、不当な扱いを認識することが求められると明確になったため、第一のステップとして策定した。</p> <p>②青少年機関(地域児童センター、文化センターなど)と連携し、共同育児に関する本や児童書を読んで読書討論をする(日韓青年ができるアクションプラン) →私たちが青少年として、未来の世代を生きる子供たちに向けてできること。単に講義を聞くよりも、子供自身が「読む→考える→話す」というプロセスを経ることで、意識がより効果的に変わるのではないかと考える。</p> <p>③キャリア経歴維持と復帰のための国家と企業の共同責任制導入 →バランスの取れたキャリア形成を可能にしていきたいという内容。主に育児によるキャリア断絶を防ぐことを目標とする。国家の政策だけでも、企業の福利厚生だけでも実効性が十分でないと判断した。育児休業を取得した人が社内ですぐ昇進しているか、またどれだけ定着しているかを割合で評価し、一定基準以上の企業には支援を行い、基準を下回る企業には監査が入る仕組みを想定した。大規模なアジェンダであり、管轄の問題など、我々の情報だけでは不透明であるため、このアジェンダは少し詳細に練る必要がある。</p> <p>④子育て支援における国家公認施設の拡大、活用 →ここでは、イギリスの“Term-time work(学期期間に合わせた働き方)”を参考にした上で、施設拡大を提案した。これは、子供の学校の学期に合わせて集中的に勤務し、休み期間には一緒に休暇を取るという流動的な制度である。日本や韓国では、現状として親が子供の学校スケジュールに合わせて働くことが難しいため、保育における公認施設の活用を検討した。具体的には、学校の下校時間から夜間まで運営する施設として活用できないかと考え、このアジェンダを設定した。人員面では、教員免許を持ちながらも実際に学校では働いていない人や、実習生を活用することで人材を補う方法も案として出た。</p> <p>⑤自治体の成果・達成率による予算付与(絶対評価制) →フィードバックを受けて修正したアジェンダである。評価が優秀な地域には追加予算を配分し、基準値以下の地域には、優秀地域の成功事例をベンチマークできるよう、改善に向けた予算を支援する仕組みを考案した。地域それぞれの特性を考慮し、絶対評価基準を地域の状況に合わせて調整する方式を取り入れた。</p>	

ワークライフバランス 워크 라이프 밸런스




韓国でのディスカッション成果・アクションプランのワークライフバランスを実践する / 한국에서의 토론 성과·역선행면 위러벌 실천하기

- 9시 이후 단체톡 하지 않기
- 근무 시간이 22시까지였던 관계로 실천하기 어려웠다.
- 개인 근무 시간이 달라서, 결국 밤에 맞추게 되었다.
- 실천하기 어려웠지만, 기억에 남는 경험이었다.
- 9시 이후 개인시간을 가질 수 있어 좋았다.
- 어차피 해야 할 일을 미루는 느낌이었다.



韓国でのディスカッション成果・アクションプランのワークライフバランスを実践する / 한국에서의 토론 성과·역선행면 설문조사 내용취합

- 9時以降はグループトークをしない
- 勤務時間が22時までだったため、実践が難しかった。
- 個人の勤務時間が違って、結局夜に合わせるようになった。
- 実践しにくかったが、記憶に残る経験だった。
- 9時以降、個人の時間を持つことができよかった。
- どうせやるべきことを後回しにしている感じだった。



韓国でのディスカッション成果・アクションプランアンケート内容収集 / 한국에서의 토론 성과·역선행면 설문조사 내용취합

한국 청소년(만19-24세) 및 일본 청소년(만19-28세) 대상 설문조사 실시

< 공통점 >

업종: 음식점 > 교육 > 편의점


아르바이트 경험: 2-3군데 > 4-5군데

목적: 용돈 > 생활비

근무형태: 장기알바 다

계약서 작성여부 및 사본 지참 여부

: 작성은 했지만 사본은 받지 못함 다



韓国でのディスカッション成果・アクションプランアンケート内容収集 / 한국에서의 토론 성과·역선행면 설문조사 내용취합

韓国の青少年(満19-24歳)及び日本の青少年(満19-28歳)を対象にアンケート調査を実施

<共通点>

業種: 飲食店 > 教育 > コンビニ


アルバイト経験: 2-3ヶ所 > 4-5ヶ所

目的: お小遣い > 生活費

勤務形態: 長期アルバイト

契約書を作成するかどうか及びコピーを持参するかどうか

: 作成はしたがコピーは受け取っていない



韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과

한국 청소년(만19-24세) 및 일본 청소년(만19-28세) 대상 설문조사 실시

< 공통점 >


최저 시급 이상을 받고 있음

수습기간: 수습기간 없음 > 수습기간 이후 월급 오름

휴게시간 지켜지고 있음

근무연장 강요: 거의없음 > 가끔있음

정당대우 받는 다 > 부당대우 받는 소수는 폭언 > 함의 X 추가근무 경험



韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과

韓国の青少年(満19-24歳)及び日本の青少年(満19-28歳)を対象にアンケート調査を実施

<共通点>


最低時給以上をもらっている

試用期間: 試用期間なし > 試用期間後の給料が上がる

休憩時間が守られている

勤務延長の強要: ほとんどなし > たまにある

政党待遇を受ける多 => 不当待遇を受ける少数は暴言 > 合意 X 追加勤務経験



韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과

한국 청소년(만19-24세) 및 일본 청소년(만19-28세) 대상 설문조사 실시

< 공통점 >


문제제기 여부: 하지 못한 사람이 많음

부당한 대우 해결가능 장구 알고 있는 사람 다

부당한 대우 해결가능 장구의 중요성 인지하는 사람 다

해결방안: 고용주 인식 개선 > 신고제도 강화

정부 및 기관의 접근성 확대가 필요하다는 의견 다



韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과

韓国の青少年(満19-24歳)及び日本の青少年(満19-28歳)を対象にアンケート調査を実施
<共通点>
問題提起の有無:できなかった人が多い
不当な待遇解決機能の窓口を知っている人が多い
不当な待遇解決機能の窓口の重要性を認知する者が多い
解決策:雇用主の認識改善 > 申告制度の強化
政府及び機関のアクセシビリティの拡大が必要であるとの意見が多い



韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과

한국 청소년(만19-24세) 및 일본 청소년(만19-28세) 대상 설문조사 실시
<차이점>
- 근무하는 곳의 근무규모
일본: 21-40명 다
한국: 5-49명 다 > 5명 미만
- 근무시간
일본: 20시간 61% / 한국: 6-10시간 다



韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과

韓国の青少年(満19-24歳)及び日本の青少年(満19-28歳)を対象にアンケート調査を実施
<相違点>
- 勤め先の規模
日本: 21-40人多
韓国: 5-49人>5人未満
- 勤務時間
日本: 約20時間 61% / 韓国: 6-10時間 多



韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과

한국 청소년(만19-24세) 및 일본 청소년(만19-28세) 대상 설문조사 실시
<차이점>
- 보험
일본: 모름 > 있음
한국: 있음 > 모름
- 가산수당: 65%반응(일본) / 모름 > 아는데 못받음(한국)
- 부당대우에 대한 문제제기를 못한 이유
일본: 부당대우를 당한지 몰랐다 多 / 한국: 보복이 두렵다&모른다 50%



韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과

韓国の青少年(満19-24歳)及び日本の青少年(満19-28歳)を対象にアンケート調査を実施
<相違点>
- 保険
日本: わからない>なし
韓国: あり > 知らない
- 加算手当(残業代等): 65%支給 (日本) / 分からない>分かるけど支給できない (韓国)
- 不当待遇に対する問題提起ができなかった理由
日本: 不当待遇を受けたことを知らなかった 多 / 韓国: 報復が怖い&わからない 50%



日韓青年AGENDA25



Agenda 個人的なアクションプラン/Agenda 개인적 액션플랜

● 액션 플랜: 근로계약서 사본 교부받아 개인 보관하기(사진 촬영 등)
Q. 해당 액션 플랜을 고안한 이유?
-> 근로계약서를 작성하고 그 사본은 고용자 외 근로자도 가지고 있어야 하는데 사진 액션플랜 설문조사 결과 양국 모두 "작성은 했지만 사본은 받지 못함 多"
이로 인해 부당대우를 받아도 모르는 경우가 있었음



Agenda 個人的なアクションプラン/Agenda 개인적 액션플랜

● 勤勞契約書のコピー交付を受けて個人保管する (写真撮影など)
Q. コピーを交付してもらって個人保管するというアクションプランを考案した理由は?
-> 勤勞契約書を作成し、その写本は雇用者以外の勤勞者も持っていなければならないが、事前アクションプランアンケート調査の結果、両国とも「作成はしたがコピーは受け取っていない」
これにより不当な待遇を受けても分からない場合があった



Agenda 共同育児・家事参加/Agenda 공동육아 가사참여

- 청소년기관(지역아동센터, 문화센터 등)을 연계해 공동육아에 대한 책으로 독서토론 진행하기



Agenda 共同育児・家事参加/Agenda 공동육아 가사참여

- 青少年機關(地域兒童センター、文化センターなど)と連携し共同育児に関する本を読んで読書討論をする



Agenda ワークライフバランスキャリア/Agenda 워라밸 커리어

- 경력 유지와 복귀를 위한 국가와 기업의 공동책임제 도입

Q. 공동책임제란?

-> 육아휴직을 쓴 남성과 여성이 회사 내 진급여부를 %로 환산해 기준 이상일 경우 국가에서 지원하고, 이하일 경우 제재를 가하는 방식



Agenda ワークライフバランスキャリア/Agenda 워라밸 커리어

- 経歴維持と復帰のための国家と企業の共同責任制導入

Q. 共同責任制度とは?

->育児休暇を取った男性と女性が会社内で進級したかどうかを %に換算して基準以上の場合は国が支援し、基準以下の場合、制裁を加える方式



Agenda 育児支援/Agenda 육아지원

- 국가공인시설 활용 방안

-> 인력, 시설 연계 및 확대(유치원, 초등학교 등)로 인프라 개선하기

EX. 영국 텀타임워크

-> 야간 운영 시간 확대로 자격증 소유자, 전공생이 실습을 할 수 있게 지도하기

Q. 텀타임 워크란 무엇인지?

-> 영국에서 현재 도입하고 있는 제도, 부모가 아동의 학업 일정에 맞춰 유동적인 근무
활용 목적은 육아지원, 업무 수요가 집중되는 직종에 효율적으로 활용



Agenda 育児支援/Agenda 육아지원

国家公認施設の活用方案

->人材、施設の連携拡大(幼稚園、小学校など)でインフラを改善する

EX. イギリス タムタイムワーク

->夜間営業時間の拡大で資格所有者、専攻生が実習できるように指導する

Q. タムタイムワークとは何か?

->イギリスで現在導入している制度、親が児童の学業日程に合わせて流動的な勤務
活用目的は、子育て支援、業務需要が集中する職種に有効活用



Agenda 国家政策/Agenda 국가정책

지역 사업의 성과에 따른 예산 부여(절대평가제)

Q. 절대평가제는 지자체마다 특색이 강한 일본에는 도입이 어려울 수도 있는데?

-> 지역 상황에 따라 절대평가의 기준을 조절하기 / 지자체별 평가하기

Q. 국가 정책 제도(인력, 시설) 구체적으로 어떻게 실현할 것인지?

-> 지역 상황에 따라 절대평가(인구, 시설의 기준 조절) 지자체별로 평가하기
절대평가 이후 좋은 지역정책을 벤치마킹할 수 있도록 국가에서 지원



Agenda 国家政策/Agenda 국가정책

自治体の成果・達成率による予算付与(絶対評価制)

Q. 自治体ごとの特色が異なる日本では絶対評価制は現実的ではないのでは?

-> 地域の特色に応じて絶対評価の基準を調整 / 自治体別に評価

Q. 国の政策制度(人材、施設)を具体的にどのように実現するのか?

-> 地域の状況に応じて絶対評価(人口、施設の基準を調整)を行い、自治体ごとに評価する
絶対評価の後、良い地域政策をベンチマークできるように国が支援する



テーマ:教育(未来の教育の望ましいあり方)

概要		
小テーマ	<p>日本：日韓の若者が直面する教育格差や学歴社会の課題を通して、誰もが平等に学べる教育の未来を考える。</p> <p>韓国：日韓青年が直面する学業ストレスの原因と対処法。</p>	
参加者	日本参加青年 4名	韓国参加青年 4名
スケジュール		
<p>【10月25日(土)】</p> <p>9:00 - 9:30</p> <p>9:30 - 11:00</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両国の現状、背景の整理 <p>【韓国側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的背景 <ul style="list-style-type: none"> - 1990年代の経済危機以降、所得・学歴格差が教育格差に直結。 - 学歴社会と競争文化が根強く、大学進学が成功の条件とされる。 ・教育構造の特徴 <ul style="list-style-type: none"> - 入試中心・一斉教育が中心。学生中心教育を掲げるものの実際は競争的で、個性や価値観の多様性が十分に尊重されていない。 ・教育格差の要因 <ul style="list-style-type: none"> - 家庭の経済力が私教育利用を左右(高所得層ほど塾通いが多い)。 - 親の学歴と子供の成績・進学率が強く関連する。 - オンライン学習でデジタル格差が拡大。 ・多様性、価値教育の現状 <ul style="list-style-type: none"> - 成績中心文化が強く、自分らしさや他者の価値尊重を学ぶ機会が少ない。 - コロナ以降は不安・自己否定感の増加も。 ・主な課題 <ul style="list-style-type: none"> - 経済力による教育格差。 - 入試偏重と多様性の欠如。 - 専門高等学校の問題。 - 子供の自己価値感の低下。 ・改善の方向性 <ul style="list-style-type: none"> - 教育の個別化、多様化(地域格差是正と幼児教育の過熱抑制)。 - 成績ではなく自分を見つける教育への転換。 	

<p>11:00 - 12:00</p> <p>13:00 - 14:00</p> <p>14:30 - 15:00</p>	<p>【日本側】</p> <ul style="list-style-type: none"> •社会的背景 バブル崩壊以降、階層格差が教育にも反映。かつての平等な教育社会が壊れ、家庭の経済力による格差が拡大。 •教育構造の特徴 公教育の平等を重視する一方、地域・家庭環境による差が拡大。特に都市部と地方の教育機会、資源格差が顕著。 •教育格差の要因 <ul style="list-style-type: none"> - 親の所得と学歴・進学率に明確な相関。 - 経済力が進学を左右。 - 地域ごとの教育資源の偏り。 •多様性・価値教育の現状 <ul style="list-style-type: none"> - 知識偏重の学習が中心で、主体性や他者理解を重視した教育が不足。 - 近年は探求学習などの改革が進むが地域差あり。 •主な課題 <ul style="list-style-type: none"> - 所得や地域差による学力差。 - デジタル環境や学習支援の不均衡。 - 学習意欲や進路選択の偏り。 •改善の方向性 <ul style="list-style-type: none"> - 学習支援、奨学金制度の拡充。 - 地方教育への投資と公教育の質向上。 - 学力以外の評価。 - 多様な進路を認める社会づくり。 <p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> •11月のディスカッション(AGENDA25の選定)に向けたアクションプランの構想 <p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> •成果発表のためのスライド作り 教育格差の定義:社会の中で人々の教育機会や学歴成果に差が生じること <p>【共通点】</p> <ul style="list-style-type: none"> •地域的な格差:首都圏から離れるほど十分な教育を受けにくい。 •経済的な格差:親の所得によって子供が受けられる教育の質が異なる。 •家庭内の教育意識:親が教育にどれだけ関心を持つかによって、子供の塾などの私教育への参加率が変わる傾向がある。 <p>【相違点】</p> <ul style="list-style-type: none"> •地方大学の衰退状況:韓国では「桜が咲く順に大学が消えていく」といわれるほど、地方大学の廃校が進んでいる。 •日本では地域ごとに有名大学が存在しており、首都圏の大学に行かなければならないという意識は韓国ほど強くない。 <p>ディスカッション成果発表・同じスライドで、1枚ずつ韓国側と日本側で交互に発表した</p>
<p>アクションプラン</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SNSを活用した教育プログラムの紹介・発信 2. 夢の再定義(職業ではなく、本当にやりたいことを考える機会) 3. さまざまな職業の紹介と理解促進 4. 同世代同士の交流を通じた意識共有 	

スケジュール	
【11月25日(火)】	
15:00 - 17:15	ディスカッション ・各自が実施したアクションプランや報告書の共有 ・一人ずつアクションプランの結果を発表し、共通点と相違点を見出す
17:15 - 17:45	ディスカッション ・仮AGENDA作成
【11月26日(水)】	
10:00 - 10:45	ディスカッション ・他のグループの仮AGENDAの確認 ・コメントや感想の共有
10:45 - 13:00	ディスカッション ・最終AGENDAの作成 ・成果発表のためのPPTと資料準備
13:00 - 14:00	昼食
14:00 - 14:30	成果発表準備
14:30 - 16:00	成果発表
日韓青年AGENDA25	
<p>①「役割→ビジョン」への夢に対する認識の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・教育者など青年に影響を与えられるような人たちのコミュニケーション方法(認識)の改善が必要。 ex)「どのような仕事かしたいの?」⇒「どのような人になりたいの?」 ex)「どの大学に行くの?」⇒「どんな環境だとあなたは成長できそう?」 ・さらに、問いかげられた青年たちがまた他人に影響を与える側になるため、将来的にはその青年たちの認識の改善も必要。 <p>②自分の好きなことができる教育環境及び社会的雰囲気づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> → 現在の教育環境は、好きな仕事を見つけるのに十分な時間がない。 → 文・理系の区分や学科を先に選択しなければならない環境が制約として作用。 → 自分の適性に合わなかったり、考え方や違う進路を選択したりした場合、変更が難しい。 → いつでも変わる本人のビジョンや進路に対する案を用意する教育環境づくり。 → 自由な専攻変更、複数専攻の許容、文・理系統合教育、学科体験など機会提供。 → 自分の真のビジョンを見出すことができる真の教育環境の確立。 <p>③2035年までに中高生に対する5日以上の職業体験を日韓両国において80%以上にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この政策には社会と教育の接続を後押しし、進路＝学歴で決まるという固定的な価値観から子供たちを解放して、学歴に縛られない多様な生き方の選択肢を提示する目的がある。 ・日本と韓国では職業体験についての現状と課題が異なる。 ・日本の問題は地域によって格差があることである。 ・学校のなかでも5日以上職場体験をしっかりと行っている県もあれば、5日以上している学校が0%の県もある。 ・令和5年度の公立中学校及び高等学校職業体験の実施率について、1位の県は兵庫県で99.2%、最下位の島根県は45.7%である。 ・韓国の問題は大学見学等、焦点が大学に当たっており職業体験の機会があまりないことである。そのため、実際に職場に出向く、職業体験を行う機会をまず与えることが必要である。 	

④オンライン教育コンテンツによる地域間の教育格差の解消


- ・首都圏から遠ざかると質の高い教育を受けにくい。
- ・解決策として韓国には韓国教育放送公社(EBS)がある。
- 教育部が支援。インターネット講義やビデオメンタリングサービスの提供。
- ・幼い頃からいつも毎瞬間使う媒体であるため、国内で有名。
- ・疎外階層に教育サービスを提供:画像メンタリング&EBS教材の一部を反映。

⑤多世代・地域との関わりの増加

- ・ロールモデルが「身近な大人」に偏りやすく、外部コミュニティとの接続が希薄なため、若者が消極的・内向的になりやすい傾向がある。
- ・関わりが少ないと、価値観や選択肢が広がらず、ロールモデルも見つけにくい。
- ・コミュニケーション力を養う機会や協働の機会が減り、自己肯定感や居場所感が低下してしまう。
- ・ライフステージの転換や将来のビジョンを描く際に判断材料が不足した状態にある。

発表スライド

**教育
교육**



韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과

自韓比較：教育格差の構造と課題

- ▶**共通点(共通点)：課題**
 - ・親の所得・学校→子供の学力・進路に直結
 - ・地域差(都市：教育資源豊富、地方：資源が少ない)
 - ・私教育・デジタル環境の差が学力差を拡大
 - ・進路選択が受験中心になりやすい
- ▶**相違点(相違点)**
 - ・大学進学が成功の必須条件という文化
 - ・入試競争、個性が活かされにくい
 - ・地方大学の急速な衰退
- ▶**日本の特徴**
 - ・卒業志向があるが、所得差、地域差が拡大
 - ・都市部と地方で教育機会に大きな差
 - ・探求学習など改革は進むが地域差が大きい



韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과

한정 학교 교육과정 구조와 과제

- ▶**교육제도(教育制度)**
 - ・7歳 compulsory education (6歳 compulsory education)
 - ・지역차(도시, 교육자원 풍부, 지방, 선택의 여지가 적음)
 - ・사교육(다지말 할 것 차이 학력차 심화)
 - ・진로 선택이 학력 중심으로 이루어짐
- ▶**교육의 현상**
 - ・대학진학이 성공의 필수조건이라는 문화
 - ・입시 풍문, 경쟁이 생기기 시작했다
 - ・지방 대학의 급격한 쇠퇴
- ▶**일본의 현상**
 - ・중등교육 과정은 스펙트럼이 넓다
 - ・수시지원과 경쟁입학이 공존한다
 - ・장기 학습을 제공하는 진형지원 지역차 크다



韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과

改善に向けた方向性とアクション

- ▶**共通点(共通点)**
 - ・学習機会から「多様な生き方、職業」へ転換
 - ・家庭背景に左右されない教育機会の保証
- ▶**地域差の縮小**
 - ・多様な進路に繋がる機会の拡大
- ▶**アクションプラン**
 - ・SNS発信、教育プログラム・進路情報にアクセスできるか
 - ・夢の再定義、学習ではなく、自分がやりたいことを考える機会づくり
 - ・様々な職業の紹介、職業体験、キャリアモデル提示により進路の選択機会を拡大
 - ・異文化交流、価値観を共有し、多様なロールモデルを知る機会を作る



韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과


개선된 방향성과 과제

- ▶**공통의 방향성**
 - ・계몽운동시대에서 다양한 삶의 방식, 가치로 전환
 - ・가정배경에 좌우되지 않는 교육기회의 보장
 - ・지역 격차 해소
 - ・다양한 진로를 갈망할 수 있는 기회 확대
- ▶**일본의 현상**
 - ・공민교육에서 SNS출발, 교육프로그램 및 진로정보 접근성 향상
 - ・문화체험, 학업이 아닌 취미가 최고 상은 얻을 수 있는 기회 확대
 - ・다양한 직업소개, 직업체험 및 동아리 행사들 통한 인문학적 확대
 - ・올바른 교육, 가치관을 공유하고 다양한 목표달성을 알아가는 자기인용기



日韓青年AGENDA25

1. 「役割⇒ビジョン」への夢に対する認識の改善 / 「역할⇒비전」으로의 꿈에 대한 인식 개선
2. 自分の好きなことができる教育環境及び社会的雰囲気づくり / 자신이 원하는 일을 할 수 있는 교육환경 및 사회적 분위기 조성
3. 2035年までに中高生に対する5日以上の職業体験を日韓両国において80%以上にする / 2035년까지 중·고등학생에 대한 5일 이상의 직업체험을 한일 양국 80% 이상으로 한다
4. 온라인教育コンテンツによる地域間の教育格差の解消 / 온라인 교육콘텐츠를 통한 지역간의 교육격차 해소
5. 多世代・地域との関わりの増加 / 다세대, 지역사회와의 교류 확대



Agenda 1. 「役割⇒ビジョン」への夢に対する認識の改善

家族・教育者など青年に影響を与えるような人たちのコミュニケーション方法(認識)の改善が必要

- ex) ・「どのような仕事をしたいの?」→「どのような人になりたいの?」
ex) ・「どの大学に行くの?」→「どんな環境だとあなたは成長できそう?」

さらに、問いかけられた青年たちがまた他人に影響を与える側になるため、将来的にはその青年たちの認識の改善も必要



Agenda 1. 「 역할⇒비전」으로의 꿈에 대한 인식 개선

→ 꿈이 직업으로 한정되어 있음.

→ 가족, 교육자 등 청소년에게 영향을 줄 수 있는 사람들의 커뮤니케이션 방식 개선 필요

ex) “어떤 일이 하고 싶니?” → “어떤 사람이 되고 싶니?”

ex) “어떤 대학에 가고 싶니?” → “너는 어떤 환경에서 성장할 수 있을 것 같니?”

→ 나아가 청소년이 또 다른 사람에게 영향을 줄 수 있기 때문에 미래에는 청년들의 인식 개선도 필요



Agenda 2. 自分の好きなことができる教育環境及び社会的雰囲気づくり

- 現在の教育環境は、好きな仕事を見つけるのに十分な時間がない
→ 文理系の区分や学科を先に選択しなければならない環境が制約として作用
→ 自分の適性に合わなかったり、考え方や進路の場合、変更が難しい
→ いつでも変わる本人のビジョンや進路に対する方策を用意する教育環境づくり
→ 自由な専攻変更、複数専攻の許容、文理系統統合教育、学科体験など機会提供
→ 自分の真のビジョンを見出すことができる真の教育環境の確立



Agenda 2. 자신이 원하는 일을 할 수 있는 교육환경 및 사회적 분위기 조성

- 현재의 교육환경은 좋아하는 일을 찾을 수 있는 충분한 시간이 부족
→ 문이과의 구분이나 학과를 먼저 선택해야만 하는 환경이 제약으로 작용
→ 자신의 적성에 맞지 않거나, 생각과는 다른 진로에서의 변경이 어려움
→ 언제든 바뀔 수 있는 본인의 비전이나 진로에 대한 방안을 마련하는 교육환경 조성
→ 자유로운 전과, 복수전공 허용, 문·이과 통합 교육, 학과 체험 등의 다양한 기회 제공
→ 자신의 진정한 비전을 찾을 수 있는 진정한 교육환경의 확립



Agenda3. 2035年までに中高生に対する5日以上の職業体験を日韓両国において80%以上にする / 2035년까지 중·고등학생에 대한 5일 이상의 직업체험을 한일 양국 80%이상으로 한다

この政策には社会と教育の接続を後押しし、進路=学歴で決まるという固定的な価値観から子どもたちを解放して、学歴に縛られない多様な生き方の選択肢を提示する目的がある。

日本と韓国では職業体験についての現状と課題が異なる。

日本の問題は地域によって格差があることである。

学校のなかでも5日以上職場体験をしっかりと行っている県もあれば、5日以上している学校が0%の県もある。

令和5年度の公立中学校及び高等学校職業体験の実施率について、1位の県は兵庫県で99.2%、最下位の島根県は45.7%である。

韓国の問題は大学見学等、焦点が大学に当たっており職業体験の機会があまりないことである。そのため、実際に職場に出向く、職業体験を行う機会をまず与えることが必要である。



Agenda3. 2035年までに中高生に対する5日以上の職業体験を日韓両国において80%以上にする / 2035년까지 중·고등학생에 대한 5일 이상의 직업체험을 한일 양국 80%이상으로 한다

이 정책은 사회와 교육의 연결을 뒷받침하고 진로=학력으로 정해진다던 고정적인 가치관에서 청소년들을 해방시켜 학력에 얽매이지 않는 다양한 삶의 선택지를 제시하는 목적이 있다.

일본과 한국은 직업체험에 대한 현황과 과제가 상이하다.

일본의 문제는 지역에 따라 격차가 있다는 것이다.

학교 중에서도 5일 이상 직장 체험을 제대로 실시하고 있는 현도 있는가 하면, 5일 이상 하고 있는 학교가 0%인 현도 있다.

2023년 중립 중·고등학교 직업 체험의 실시율에 대해서, 1위의 현은 호고현으로 99.2% 최하위의 시마네현은 45.7%이다.

한국의 문제는 대학견학 등 초점이 대학에 맞춰져 있어 직업 체험의 기회가 별로 없다는 것이다. 그 때문에, 실제로 직장에 나가서, 직업 체험을 실시할 기회를 우선 주는 것이 필요하다.



Agenda 4. オンライン教育コンテンツによる地域間の教育格差の解消

- * 首都圏から遠ざかると質の高い教育を受けにくい
* 解決策として韓国ではEBSがある。
→ 教育部が支援。インターネット講義やビデオメンタリングサービスの提供
* 幼い頃からいつも毎瞬間使う媒体なので国内で有名
* 疎外階層に教育サービスを提供:画像メンタリング&EBS教材の一部を反映



Agenda 4. 온라인 교육콘텐츠를 통한 지역간의 교육격차 해소

- * 수도권으로부터 멀어지면 질 좋은 교육받기 힘들
* 해결방안으로 한국에서는 EBS가 있음.
→ 教育部가 지원. 인터넷 강의나 화상 멘토링 서비스 제공
* 어릴 때부터 항상 매순간 사용하는 매체가기 때문에 국내에서 유명
* 소외계층에게 교육서비스 제공: 화상멘토링 & EBS의 교재들 중 일부 반영



Agenda 5. / 多世代・地域との関わりの増加

ロールモデルが「身近な大人」に偏りやすく、外部コミュニティとの接続が希薄なため、若者が消極的・内向的になりやすい傾向がある。

関りが少ないと、価値観や選択肢が広がらず、ロールモデルも見つけにくい。

また、コミュニケーション力を養う機会や協働の機会が減り、自己肯定感や居場所感が低下してしまう。そのため、ライフステージの転換や将来のビジョンを描く際に判断材料が不足した状態にあるため。



Agenda 5. / 다세대·지역사회와의 교류 확대

롤모델은 '가까운 어른'으로 한정되는 경향이 있으며 외부 커뮤니티와의 연결도 약하다. 이로 인해 청년들은 수동적이고 내향적으로 변하기 쉽다.

교류가 제한되면 가치관이나 선택지가 넓어지지 않고 롤모델을 찾는 것도 어려워진다.

또한 의사소통 능력과 협동력을 기를 기회가 줄어들어 자존감과 소속감이 저하된다. 결과적으로 인생의 전환기를 극복하거나 미래상을 그릴 때 충분한 자질을 얻지 못하는 상태에 빠지게 된다.



テーマ:環境

概要			
小テーマ	<p>日本：都市開発と矛盾する部分が少なからずある環境保護をどう両立していくかについて、一次産業の振興や災害対策、地域コミュニティ、社会的格差などの課題を切り口に議論したい。</p> <p>韓国：炭素排出による気候変動と食糧問題に対し、個人、企業、政府はどのように取り組むべきか。</p>		
参加者	<table border="1"> <tr> <td>日本参加青年 4名</td> <td>韓国参加青年 5名</td> </tr> </table>	日本参加青年 4名	韓国参加青年 5名
日本参加青年 4名	韓国参加青年 5名		
通訳	韓国青年代表団通訳		
スケジュール			
<p>【10月25日(土)】</p> <p>9:00 - 9:30</p> <p>9:30 - 12:00</p>	<p>ディスカッション・オリエンテーション</p> <p>ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションの進め方、時間の使い方について確認 <ul style="list-style-type: none"> - 10分を目安に韓国側、日本側で話す人間を交代すること - まずはお互いにリサーチしてきた内容を発表する時間を取ること ・テーマに関し、それぞれがリサーチしてきた事柄の共有 <ul style="list-style-type: none"> - 韓国側：「都市開発」「一次産業」「災害対策」「地域コミュニティ」について実際の事例とともに韓国の現状を発表、リサーチした日本の現状について考察 - 日本側：韓国側から共有された各テーマに対する日本国内での事例の共有、「フードロス」「医療格差」など各テーマに対して踏み込んだ議論を展開し日本での現状を発表 ・両国の課題の共通点、相違点等を議論 <ul style="list-style-type: none"> - 韓国が抱える地域での公害問題と日本での地域衰退問題には、地域開発についての考えの相違があることを確認 - 環境アセスメントが適切に行われなまま都市化が進むことで環境に負荷がかかること、実際に一次産業に打撃を与えた事例が共通していることを共有 		

スケジュール	
【10月25日(土)】 12:00 - 13:00 13:00 - 14:00 14:30 - 15:30	昼食 ディスカッション ・アクションプランの検討、設定 ・成果発表の準備 ディスカッション成果発表
アクションプラン ・地産地消の励行を目的に、地域の産品を買って食べる。 ・画像にまとめてSNSに投稿する。	
【11月25日(火)】 15:00 - 18:00	ディスカッション ・1か月で実施したアクションプランの感想を共有 ・発信した内容や成果、それを経ての気づきを全メンバーからヒアリング ・それぞれが準備してきたAGENDAの草案を共有し、議論の俎上に載せる ・仮AGENDAの制定 - チーム全体の方針として、間に合わせの仮AGENDAを五つ設定することよりもしっかり議論したものを現段階で二〜三つ提出することに決定 - 仮AGENDAは、その文言よりも至るまでの思考の過程を重視し、質の高い相互レビューが得られるよう議論の流れを含めて記述した
【11月26日(水)】 9:00 - 10:00 10:00 - 10:45 10:45 - 12:00 13:00 - 14:00 14:00 - 14:30 14:30 - 16:00	ディスカッション(※自主活動)・プログラム外ではあるが、前日段階で決まっていなかった仮AGENDAについて議論する時間として、朝の時間を活用してグループ全体で集まり、議論を行う ・仮AGENDAの三つ目までを思考過程を含めてホワイトボードに記載し、午前中の相互レビューの時間への準備を行う ディスカッション ・他チームの設定した現段階での仮AGENDAについてレビューを行う ・自チームにつけられたコメントから、仮AGENDAの具体性不足、根本の意義について改めて韓国側と認識をすり合わせる必要性を感じた ディスカッション ・レビューをもらった三つの仮AGENDAのブラッシュアップを、日韓両言語でのコメントの内容をもとに議論する ・韓国滞在時の議論や、アクションプランの成果から残りの二つのAGENDAについても日韓両国で一つずつ文言を書き、対の言語に翻訳する 昼食 成果発表準備 成果発表
日韓青年AGENDA25 ①地産地消の消費と実践 ②地産地消の発信 ③産地直送オンラインコミュニティの活性化 ④若者の体験学習の機会の創出 ⑤炭素排出の削減	

Discuss Group_D

環境 환경

- With Agenda 25 -

韓国でのディスカッション成果 / 韓国에서의 토론 성과(2025.10.25.)

アクションプラン(Action Plan)
1. 韓国と日本のローカルフード事例調査
2. ローカルフード消費実践
3. SNSアップロード

역선플랜(Action Plan)
1. 한국과 일본의 로컬푸드 사례 조사
2. 로컬푸드 소비 실천
3. SNS 업로드

<環境チーム Instagram>

Action Planの成果(韓国) / Action Plan 성과(한국)

<카드뉴스 제작>
・第1次産業と環境問題
・農民産市活動
・スマート農業
・ローカルフード

<카드뉴스 제작>
・1차 산업과 환경 문제
・농민 연대 활동
・스마트 농업
・로컬푸드

・チームメンバーごとに実践したローカルフードの活用事例をカードニュースで制作
・장점 재인이다 실천한 로컬푸드 활동 사례를 카드뉴스로 제작

Action Planの成果(日本) / Action Plan 성과(일본)

① 「環境」を自分ごととして考えられた / 「환경」 문제를 자기 일로 생각할 수 있게 되었다

② 日韩それぞれの現場を可視化できた / 한・일 각각의 현장을 가시화할 수 있었다

③ オフラインの実践をオンライン発信で記録し、行動に興味づけを行った / 오프라인 실천을 온라인 발신으로 기록하며, 그 행동에 의미를 부여했다

④ チームとしての共通メッセージができた / 팀 차원의 공통된 메시지가 형성되었다

日韓青年AGENDA25

1. 地産地消の消費と実践 / 로컬푸드 소비 실천
2. 地産地消の発信 / 로컬푸드&지산지소 홍보
3. 産地直送オンラインコミュニティの活性化 / 온라인 직거래 커뮤니티 활성화
4. 若者の体験学習の機会創出 / 젊은 층에게 체험학습 기회 제공
5. 炭素排出の削減 / 탄소배출 감소시키기

Agenda 1. 地産地消の消費と実践 / 로컬푸드 소비 실천

- ディスカッション活動でローカルフードの重要性に気づき、各地域で消費を実践するアクションプランを計画し実践する。
- 得意 활동으로 로컬푸드 중요성을 깨닫고, 각 지역에서 소비를 실천하는 역선플랜을 계획하고 실천

Agenda 2. 地産地消の発信 / 로컬푸드&지산지소 홍보

- SNS発信、知人への紹介、直売所リスト、マップを通じたお知らせ、活用レシピの共有、旬の農産物のPR
- SNS 홍보, 지인들에게 소개, 마켓리스트, 앱을 통한 알리기, 활용 레시피 공유, 계절 농산물 홍보


Agenda 3. 産地直送オンラインコミュニティの活性化 / 온라인 직거래 커뮤니티 활성화

EX) 韓国のノンラ(生産者-消費者がすぐ直取引可能)
→ジモティ(韓国のエンジンマーケットのような...),メルカリなどのアプリ活用


EX) 韓국의 농리(생산자-소비자 바로 직거래 가능)
→ 지모티(한국의 당근마켓 같은), 메투카리 등의 어플 활용

12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 14:30	ディスカッション(成果発表の準備)
14:30 - 15:30	ディスカッション成果発表(担当:長澤パティ明寿、ノ・ジャウン)
主な議論と次回までのアクションプラン <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディアの定義を確認＝キーワードは「多様なコンテンツ」「双方向性」「情報の交流」「誰もがいつでも発信者」 ・我々が見据える未来＝人類の生活を豊かにするツールとしてソーシャルメディアやAIが存在し、多様な交流と創造性の発展に向かって協働する ・他方で、日韓両国においてソーシャルメディアやAIを取り巻く多様な課題が存在 ・AI政策については、日本側が「リスク対応」「国民の不安払拭」を重視、韓国側が「活用・産業化」を重視 ・次回までのアクションとして「日韓のSNS話題調査」「日韓のAI教育調査」を実施することを確認 	
【11月25日(火)】	
15:00-16:30	つどいにおけるディスカッションのオリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・「日韓のSNS話題調査」「日韓のAI教育調査」調査報告 ・インスタグラムアカウントの開設とカードニュース作成・投稿
16:30-17:50	ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・AGENDA25におけるアクションプランの検討
22:00-24:00	ディスカッション(※自主活動) <ul style="list-style-type: none"> ・AGENDA25におけるアクションプランの検討
【11月26日(水)】	
10:00 - 10:45	ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・付箋を用いた相互レビュー ・他グループとの情報・意見交換
10:45 - 13:00	ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・AGENDA25及びアクションプランの最終確定 ・発表資料準備
13:00 - 14:00	昼食
14:00 - 14:30	成果発表準備
14:30 - 16:00	成果発表(担当:長澤パティ明寿、カン・ウビン、ユ・ソヨン)
日韓青年AGENDA25 <ol style="list-style-type: none"> ①日韓のポジティブニュース発信(ソーシャルメディアチーム) ②ファクトチェック機能の強化(SNSプラットフォーム提供企業) ③「格差」を埋める青年(日韓青年) ④「人間中心」のAI活用へ向けた日韓協力の推進(両国政府) ⑤メディア・AIリテラシー教育の早期化(各国政府) 	
事後活動としてのアクションプラン実施 <p>○日韓のポジティブニュース発信!</p> <p>AGENDAを作成するプロセスにおいて両国のSNS状況を観察していた際、SNS空間においてネガティブ発信が流布されやすい状況があることを認識し、特に日韓関係に関するネガティブ発信の多さとエコーチェンバー化を危惧したことに端を発する。日韓関係や両国社会のポジティブなニュースを月に一回、インスタグラムで発信する予定(日本青年と韓国青年が隔月で)。少なくとも1年間は継続していくことを前提としたアクションプランであり(目指せ25年!)、実践を通して韓国青年たちとの絆を更に深めながら日韓の友好関係に貢献していきたい。</p>	

ソーシャルメディア 소셜 미디어




韓国でのディスカッション成果 / 한국에서의 토론 성과



- ・ソーシャルメディアの定義を整理
 - ＝キーワードは「多様なコンテンツ」「双方向性」「情報の交流」「誰もがいづつも発信者」
- ・我々が捉える未来＝「人間の生活を豊かにするツールとしてソーシャルメディアやAIが存在し、多様な交流と創造性の発展に向かって協働する。」
- ・他方で、日韓両国においてソーシャルメディアやAIを取り巻く各種課題が存在
 - ・AI政策については、日本側が「リスク対応」「国民の不安払拭」を重視、韓国側「活用・産業化」を重視
 - ・次期までのアクションとして「日韓のSNS話題調査」「日韓のAI教育調査」を実施することを確認
- ・ 소셜 미디어의 정의 확인 (키워드: 다양한 콘텐츠, 쌍방향성, 정보 교환, 높은 접근 가능성과 발행 가능성)
 - ・ 우리가 바라보는 미래 인류의 생활 질을 향상시키는 도구로서 소셜 미디어가 존재하며, 다양한 교류와 창조성 발현에 기여할 것
- ・ 한일 양국에 소셜 미디어, AI를 둘러싼 각종 문제 존재
- ・ AI 정책 등에 대해 일본측은 위험성 대응/한국측은 활용 및 산업화를 중시
- ・ 이번 일본 조사가 활동까지 확산될수록서는 한일 SNS 이슈 조사, 한일 AI 교육을 실시하는 것으로 확인

日韓青年AGENDA25 (活動主体)

- ① 日韓のポジティブニュース発信 (ソーシャルメディアチーム)
- ① 한일 positive news 발행 (소셜미디어팀)
- ② ファクトチェック機能の強化 (SNSプラットフォーム提供企業)
- ② 팩트체크 기능 강화 (SNS 플랫폼 제공 기업)
- ③ 「格差」を埋める青年 (日韓青年)
- ③ 디지털 격차를 줄이는데 기여하는 청년 (한일 청년)
- ④ 「人間中心」のAI活用へ向け日韓協力の推進 (両国政府)
- ④ 인간중심의 AI 사용을 위한 한일 간의 노력 (양국정부)
- ⑤ メディア・AIリテラシー教育の早期化 (各国政府)
- ⑤ 미디어・AI 리터러시 교육 대상 연령 하향 (각국정부)



① 日韓のポジティブニュース発信 (ソーシャルメディアチーム) / ① 한일 positive news 발행 (소셜미디어팀)

背景

- ・ SNS空間におけるネガティブ発信の激増
- ・ 日韓関係に係るネガティブ発信とエコーチェンバー
- ・ ソーシャルメディアチームのInstagramアカウント作成

アクション


- ・ 月一週、日韓関係に関するポジティブなInstagramで発信 (日本青年と韓国青年が隔月で)
- ・ 少なくとも1年継続する。(25年継続出来るとなると良い！)

背景

- ・ SNS空間에서의 negative 발행 급증
- ・ 한일관계에 관한 negative発信과 echo chamber(반향실 효과)
- ・ 소셜미디어팀의 Instagram 계정 작성

Action

- ・ 한 달에 한 번, 한일관계에 관련된 positive 정보를 Instagram에 발행
- ・ 국경선과 일본 영토가 변경되어도 좋습니다
- ・ 현재 1년 지속 (25년동안 계속되면 좋아) ...까지..



② ファクトチェック機能の強化 (SNSプラットフォーム提供企業) / ② 팩트체크 기능 강화 (SNS 플랫폼 제공 기업)

背景

- ・ SNSにおける偽情報の拡散
- ・ 各種ファクトチェック機能強化の必要性

アクション

- ・ 企業が主体としてファクトチェック機能強化
- ・ (国と市民は企業への要請を強める)

背景

- ・ SNS에서의 거짓정보 확산
- ・ 각종 fact check 기능 강화의 필요성

Action

- ・ 기업의 주체로서 거짓정보 확인 기능 강화, 감시 강화




③ 「格差」を埋める青年 (日韓青年) / ③ 디지털 격차를 줄이는데 기여하는 청년 (한일 청년)

背景

- ・ デジタルに關する「格差」の拡大 (地方と都市、世代間)
- ・ 青年世代＝デジタルが一般化する前後を学生として過ごしている
- ・ 日韓における青年世代の積極的な活動事例 (山形AI部、高齢者世代における講習)

アクション



- ・ 青年が「業付け」となり「格差」を埋める活動に参加
- ・ クラウドソーシングを活用し、地域・世代を超えた交流を活性化

背景

- ・ 디지털 격차 확대 (지역간/세대간)
- ・ 청년세대는 디지털 일반화 되기 전후를 경험한 세대
- ・ 한일의 청년세대와 적극적인 활동 사례 (여과가타AI부, 정교당 수업)

Action

- ・ 청년이 '업종'이 되어 격차를 줄이는 활동에 참여
- ・ 기술 활용으로 지역간, 세대간 차이를 다뤄 교류 활성화

④ 「人間中心」のAI活用へ向け日韓協力の推進 (両国政府) / ④ 인간중심의 AI 사용을 위한 한일 간의 노력 (양국정부)

背景

- ・ 日本における「人工知能・関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律 (AI法)」
- ・ 韓国における「人工知能 (AI) の発展と信頼の構築に関する基本法」
- ・ 「AIを含む科学技術分野における協力について議論するため、日韓科学技術協力委員会を開催していただくことと一致」 (2025年3月日韓首脳会談)
- ・ 「半導体や人工知能 (AI) など先端産業で共に成長する余地が大きい」との見方が強い (日韓経産省アンケート、日経・毎日経済)

アクション



- ・ AI分野への投資・共同研究の促進 (日韓科学技術協力委員会の枠組みを活用)
- ・ 教育ノウハウの共有 (特に韓国の高等教育におけるAI教育の在り方など)

背景

- ・ 일본의 인공지능 관련 기술 연구 개발 및 활용 추진에 관한 법률
- ・ 한국의 인공지능 발전과 신뢰 구축에 관한 기본법 AI를 포함한 과학 기술 분야의 협력에 대해 주요 협력을 강조하는 것은 일치 (협동/협력/간담회 등)
- ・ (= 목적은 국민 생활 질적 향상, 국민 경제 활성)
- ・ 반도체와 인공지능 등 첨단 산업으로 많이 성장할 여지가 큰 분야의 강하다 (한일 경제장 실무조사, 매일경제)

Action

- ・ AI 분야의 투자, 공동 연구 추진 (한일과학기술협력위원회 활용)
- ・ 교육 노하우 공유 (특히 한국 고등교육에 관한 AI 교육)

⑤ メディア・AIリテラシー教育の早期化 (各国政府) / ⑤ 미디어・AI 리터러시 교육 대상 연령 하향 (각국정부)

背景

- ・ 日韓両国における青少年を取り巻くソーシャルメディア関連課題の増加と複雑化 (闇バイト、ディープフェイク、個人情報管理、いじめ問題...)
- ・ 若年層におけるソーシャルメディアやAIの一般化

アクション

- ・ 道徳教育との融合
- ・ 情報科目の早期履修化 (小学校低学年へのリテラシー教育の導入検討)

背景

- ・ 日韓 양국의 청소년을 둘러싼 소셜 미디어 관련 과제 증가와 복잡화 (숨벌 알바, 딥페이크, 가짜정보, 괴롭힘 등)
- ・ 젊은 층의 소셜 미디어와 AI의 일반화

Action

- ・ 정보 과목 조기 개시 (초등학교 저학년용 대상으로 도입 검토)

